

次世代システム研究会  
第52回研究会

# イノベーションの社会実装

## 北九州市プロジェクトのあるべき姿

九州国際大学 メディアセンター  
2009年3月7日(土)

東京大学名誉教授  
平澤 冷  
rh@rhirasawa.info

## 我々が直面している課題

- 長期的・全体的スコープでの最適化
- 社会(コミュニティ)全体の変革
- 参加型で展開する必要
- 新たな知恵とその社会への浸透

## イノベーションの社会実装

- イノベーション: 何かを新しくする
- 社会実装: 社会への普及
- 独自の取り組みが必要
- 2段階モデル: 新しい何かを見出す + 社会に普及

# リニアモデルとコンカレントモデル

## ■ リニアモデル

たとえば: science + technology +  
economics + society

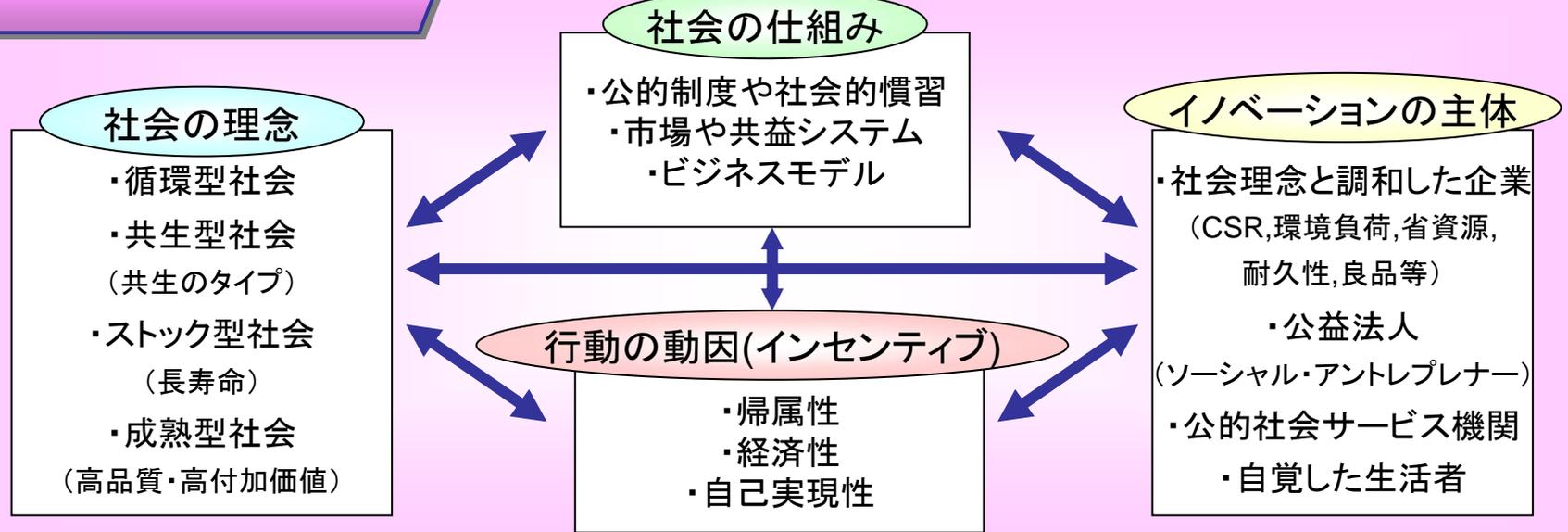
## ■ コンカレントモデル

たとえば: Science   あるいは: Science  
Technology                   Technology  
Economics                   Economics  
Society                       Society

# 我が国社会の自立的持続

- ・社会イノベーションのあり方
- ・イノベーションを担うアクター
- ・具体的切口(ビジネスチャンス)

## 社会のイノベーション



ネットワーク型社会

人が生み出した人知の“外部装置”  
(移動・コミュニケーション手段等)  
と社会的“構造物”(社会的規範・教育制度  
等)

学習型社会

科学技術のイノベーション

物的工業製品  
知的工業製品

個のイノベーション

倫理・意識・価値観  
自己実現への取り組み

# 社会的合意形成の課題

## ○ 個と集団（組織）との価値の乖離

- ・全体としては望ましい方向であることが理解できても、個としては同一の価値観に基づく行動を必ずしもおこなない。【CO2問題】
- ・参加型合意形成の必要性：「妥当性」と「正当性」

## ○ 確定的知識の領域と不可避的不確定性（リスク）

- ・「法則」、「論理」、「メタ原理」の差異。【知識論】
- ・「法則」の階層性。【部分的認識の不用意な一般化】

## ○ 戦略的リーダーシップ発揮のための戦略の浸透と共有

- ・「個」のインセンティブの連鎖を集団全体に広がるネットワークになるように設計する。【インセンティブ理論】
- ・機能エージェントをアクターとするインセンティブ連鎖ループの形成
- ・ディスインセンティブ箇所（新制度の導入等）が政策手段

# インセンティブ理論

## ■ インセンティブ: 動因

単なる損得勘定だけでなく人間的な多様な価値観に基づく動因

## ■ インセンティブ連鎖: 動因連鎖

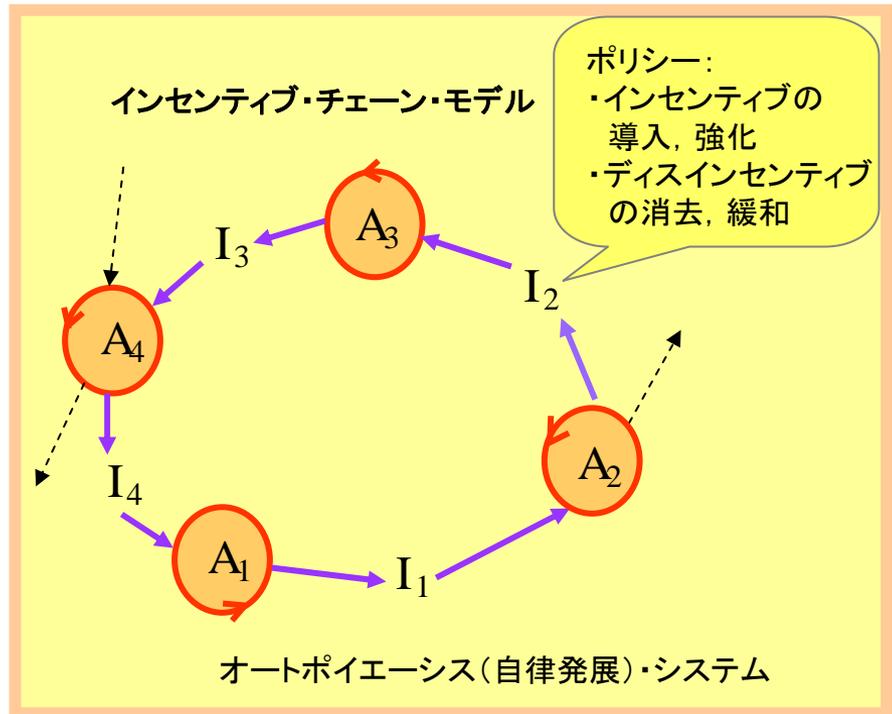
あるアクターの活動結果が他のアクターの活動にとってインセンティブを与える関係の連なり

## ■ アクター・ネットワーク: 活動者網

インセンティブ連鎖によって関係づけられたアクターの連なり

## ■ ポリシー

インセンティブ連鎖形成と強化のための「仕掛け」  
(取組み, 制度, 環境条件整備等)



# 欲求の発展段階説

S. コヴィー	A. H. マズロー	横山哲夫
相互依存	共同体発展	共生
独立	自己実現	個立
独立	承認・自尊	個別
依存	帰属・親和	集団
依存	安定・安全	安定
依存	生理的	生存



# 戦略の浸透と共有

## ☆ 共有できる戦略目標の策定

- ・可能な限り広い視野と長期的展望の下での  
確かな知識の獲得
- ・部分的な知識による社会への助言は混乱のもと

## ☆ 社会への浸透を担う機能エージェントによる動的 ネットワークモデル

- ・統合型研究者：個別事象の統合を研究
- ・観測型研究者：獲得された知識と社会との相互作用  
の観察とフィードバック
- ・設計型研究者：インセンティブ・ループ・ネットワーク  
を目指した社会制度の設計
- ・先覚的行為者：自らの行動を社会目標実現に向ける
- ・実務的行為者：個別の実務を担い行動する行為者

# 参加型による未来社会の構想：ドイツの事例Futur

## ■ 20年後のドイツのあるべき姿：未来社会の設計

### ■ 支援機関の公募：

会議支援専門機関

研究機関(未来研究＋政策研究)

技術者協会

ネット支援企業

### ■ 連邦教育研究省BMBF内部の組織化：

プロジェクトチーム(50人)

資金配分機関ネットワーク

大臣諮問会議(12人)

## ■ 専門家集団の構成：2段階共指名

支援機関からの推薦（原初メンバー）

原初メンバーからの推薦（二次メンバー）

自薦メンバー

内部検討者（865名）

外部検討者（597名）

## ■ 検討過程：2段階

トピックの収集過程：

国民各層からの公募＋専門家による構想  
テーマの絞込み過程：

内外検討者による多段階的検討とパブコメ

## ■ トピックス

収集内容をトピックスに分類(約2,000)  
項目に分解し分類する(約10,000)

## ■ テーマの絞り込み

63の素クラスター

21のテーマに絞り込む

12のテーマを選択:

内外検討者の投票

技術者協会によるアセスメント

プロジェクトメンバーの投票

諮問会議からの意見表明

## ■ 未来社会ビジョン：専門家によるワークショップ

- ①健康と幸福の未来社会
- ②仕事と生活のバランスがとれた未来社会
- ③老齡化にもかかわらず持続する社会
- ④未来の都市の集積
- ⑤未来の学習社会

## ■ 未来社会に至るシナリオ

- ①予防に基づく健康生活(①)
- ②効率・自立・安全なネット社会での生活(②)
- ③思考過程の理解(⑤)
- ④学習社会の入り口を開く(⑤)
- ⑤知識の操作(未完)
- ⑥未来社会のための知的生産物とシステム(未完)